

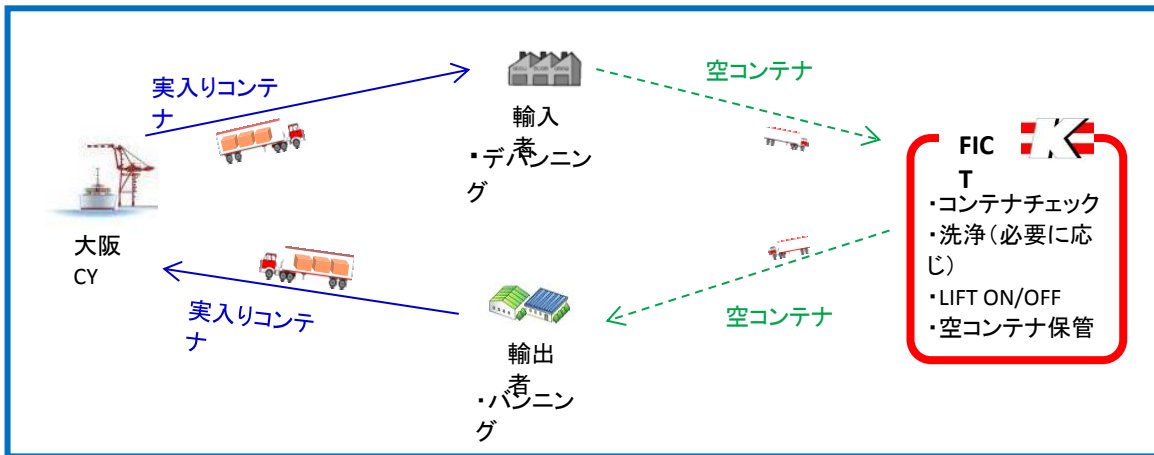
平成27年度 次世代物流システム構築事業  
実証事業報告書

1.補助事業者名 郵船港運株式会社

2.補助事業の名称 伏見インランドコンテナターミナル事業（インランドデポ）

3.事業概要

当該事業は、近年物流業界が抱える問題（CO2削減、ドライバー不足、港湾地区の渋滞緩和、コスト削減）を解消、対応する為に、対策の一環として荷主企業と連携したコンテナラウンドユースを進めるべく内陸拠点にインランドコンテナターミナルを設置し、更なる物流の効率化を実現する事を目的として実施した。



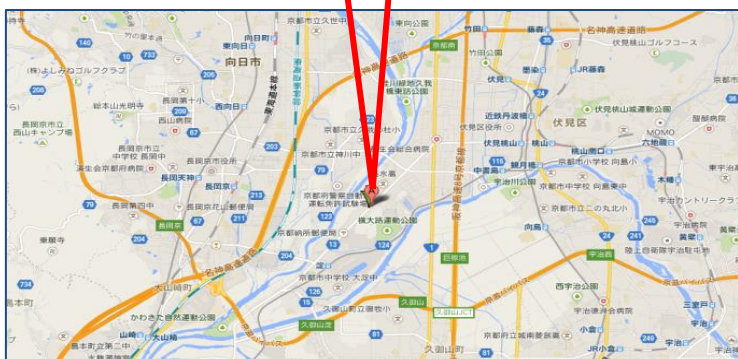
4.事業の内容

(1)整備した設備・機器等の内容

当該事業伏見インランドデポを京都市伏見区を拠点とした。詳細については下記となります。

①所在地等

- ・住所 京都府京都市伏見区横大路六反畑6-6
- ・地図 事業拠点周辺エリア



距離圏	都市
10km	京都府京都市、 奈良県奈良市、 等
20km	枚方市、 高槻市、 大津市、 等
30km	草津市、 守山市、 等

## ②設備・機器等の使用及び構成

### ・仕様

空コンテナのみの取扱いとなり、保管可能本数約150本、月間取扱い本数最大約300本

### ・構成

項目	内容
A. トップリフター(2点吊)	20' CNTR / 40' CNTRの取扱い(LIFT-ON/OFF作業)を実施する為に導入
B. コンテナチェック台	搬入されるコンテナを上部よりダメージの確認を実施する為に導入
C. コンテナ洗浄機	コンテナ内の汚れを清掃・洗浄を実施する為に導入
D. メンテナンス用備品	コンテナの軽度な破損、損傷を修繕する為に導入
E. システム	EIR作成・発行及び各船会社へのコンテナ在庫報告を行う為に導入

## (2)事業のポイント

### ①物流効率化

当該事業の拠点を内陸に置く事で、インランドデポの利用を頂く輸入者様、輸出者様にとっては輸送距離の短縮、コンテナの搬入・搬出待ち時間の短縮となり、CO2削減、コスト削減、港湾地区渋滞緩和の解消が可能となる。

### ②品質向上

港湾地区で実施されているコンテナチェック、コンテナ簡易メンテナンス、コンテナ洗浄を実施する事でコンテナの品質を保持する事が出来、従来のラウンドユースでは解決出来なかった事由を解決出来、ラウンドユースの実施拡大に寄与した。

### ③荷主との連携

当該事業実施に際し、荷主企業との定期的な戦略会議、安全会議等を行い、事業の品質向上を行った。

## (3)実証事業の実施概要

### ①目的と概要

コンテナラウンドユースの一層の促進を目的とし、港湾地区に実施されている機能を内陸の拠点で実施する事で、荷主企業の利用便利性の向上を図り、多くの荷主企業にコンテナラウンドユースを実施、促進する為、事業を実施した。

### ②日時

2015年11月2日より実施（実運営は2015年10月1日より開始）

### ③実証フロー

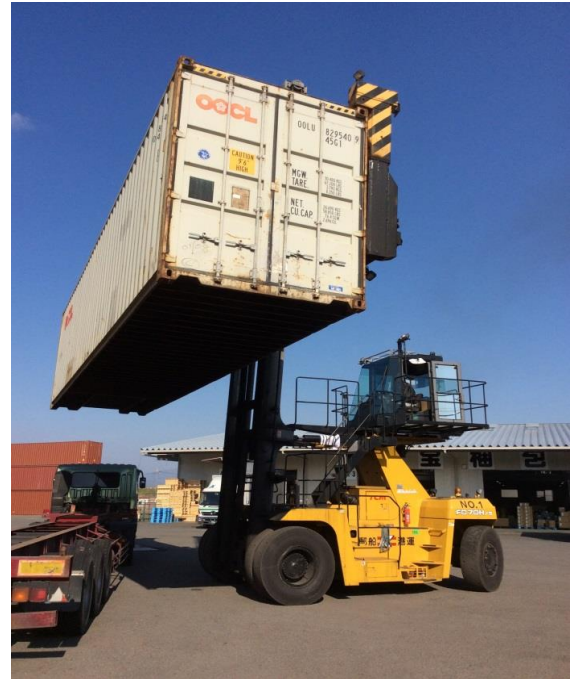
- ・コンテナ搬入時ダメージチェック実施
- ・コンテナチェック後、Lift-Off作業実施
- ・コンテナ洗浄作業実施（必要時のみ作業）
- ・コンテナ簡易メンテナンス作業実施（必要時のみ作業）
- ・コンテナ保管、管理実施
- ・EIR発行業務実施
- ・コンテナ搬出時、Lift-On作業実施
- ・各船会社毎にコンテナ在庫報告実施（毎日）

④写真

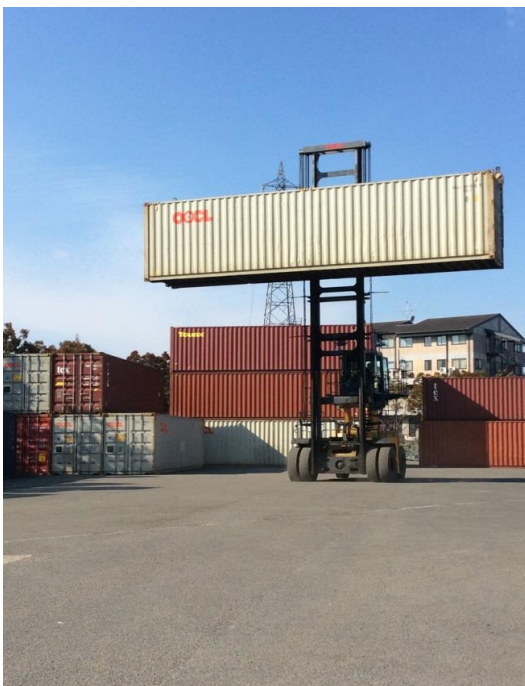
1) コンテナ搬入時にダメージチェック実施



2) コンテナチェック後、Lift-Off作業実施



3) コンテナ洗浄、コンテナメンテナンスが不要であれば  
保管エリアへ移動、管理実施



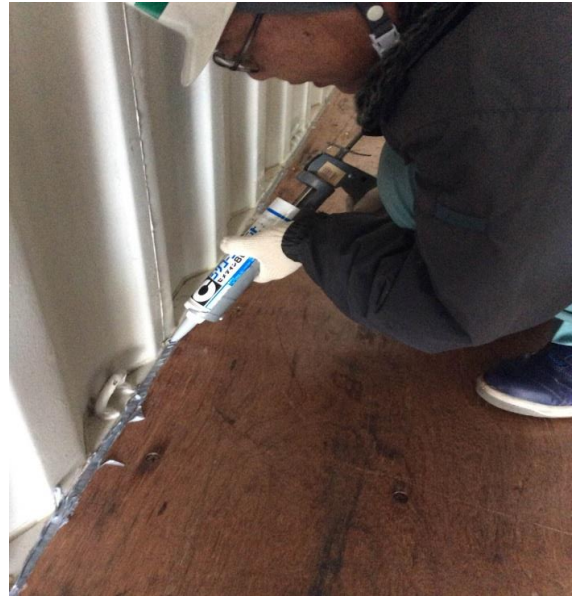
4) コンテナ洗浄が必要時、指定場所にて作業実施



5) コンテナ洗浄実施 (必要時のみ作業)



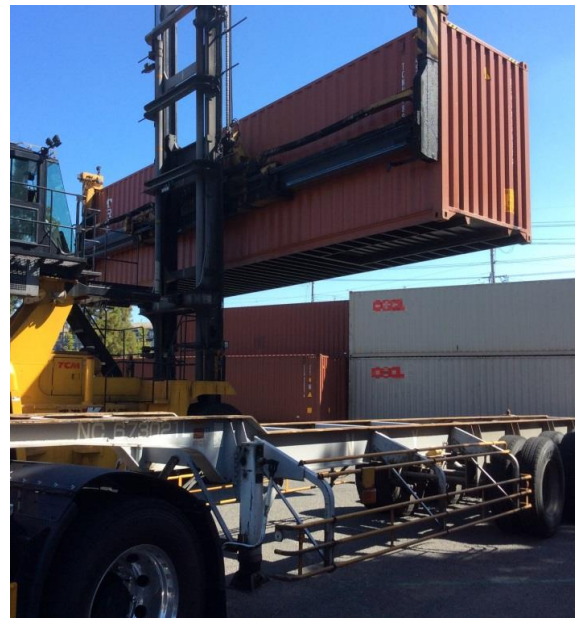
6) コンテナ簡易メンテナンス実施 (必要時のみ作業)



7) コンテナ保管在庫からコンテナPICK UP



8) 搬出コンテナをLift-on作業実施



(4)経緯とスケジュール

- ・2015年9月10日 補助金交付決定
- ・2015年9月18日 トップリフター移設作業発注（補助金対象外）
- ・2015年9月29日 コンテナ洗浄機発注、コンテナチェック台発注、ゲート用備品発注
- ・2015年10月1日 コンテナ洗浄、コンテナ上部チェック以外の作業実施
- ・2015年10月6日 コンテナ洗浄機納品完了
- ・2015年10月8日 ゲート用備品納入完了
- ・2015年10月29日 コンテナチェック台納品完了
- ・2015年11月2日 全ての作業実施
- ・2015年12月1日 トップリフタータイヤ交換作業発注
- ・2015年12月12日 トップリフタータイヤ交換作業納品完了
- ・2016年2月29日 報告完了

5.事業効果

当該事業は、物流の効率化を推進するにあたり、近年、物流業界で課題となっているコスト削減、CO2削減、ドライバー不足の解消、港湾地区の渋滞緩和の対策の一環として荷主企業と連携したコンテナラウンドユース実施すべく、当該事業の実施に至った。

当該事業実施事項のコンテナチェック、コンテナ洗浄、コンテナ保管、コンテナ簡易メンテナンスを行う事で、コンテナの品質が保持され、従来のラウンドユースでは解決出来ない事由を解決し更に物流の効率化を図れた。

また、インランドデポにてコンテナを受ける事で、コンテナの責任範囲が明確になり、多くの荷主企業が参加出来る仕組みとなっており、公共性を持った事業と荷主企業より高評価を頂いております。

ラウンドユース実施前の各社のCO2排出量(2015年10月～2016年2月実績)			各社年間想定排出量	
	輸送距離(1輸送)	コンテナ台数	CO2排出量	
A社	328.2km	138.0台/40HQ	507.7ton	
B社	171.4km	36.0台/40HQ	69.2ton	
C社	210.4km	11.0台/40HQ	26.0ton	
D社	285.8km	7.0台/40HQ	22.4ton	
E社	152.6km	4.0台/40HQ	6.8ton	
合計			<b>1,264.3ton</b>	



インランドデポ利用のラウンドユース実施後の各社のCO2排出量(2015年10月～2016年2月実績)			各社年間想定排出量	
	輸送距離(1輸送)	コンテナ台数	CO2排出量	
A社	241.6km	138.0台/40HQ	388.7ton	
B社	116.9km	36.0台/40HQ	49.6ton	
C社	128.0km	11.0台/40HQ	16.9ton	
D社	199.2km	7.0台/40HQ	16.4ton	
E社	132.6km	4.0台/40HQ	6.1ton	
合計			<b>477.6ton</b>	



<b>CO2削減効果</b>	<b>786.6ton</b>
----------------	-----------------

6.今後の課題等

当該事業開始にあたり、以前、大型トラック車庫として利用していた土地を利用し、当該事業を行っております。事業開始に伴い、土地の改良については投資額が多く必要となる為、不十分な状況です。よって、開始後直ぐに、利用土地の一部に破損が発生致しました。(現時点では未修繕)よって、当該事業の引き続きの安定運営を行うにも、土地の改良が難易度の高い課題となっております。